

# 県内景況 14期連続プラス

公庫7～9月

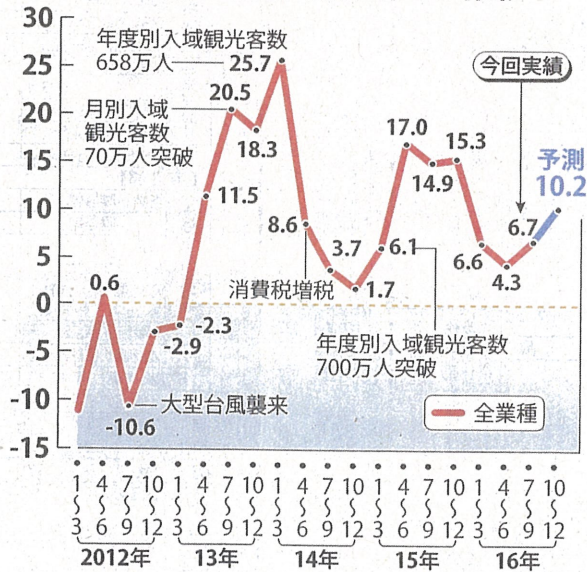
## 飲食・宿泊は過去最高

沖縄振興開発金融公庫(川上好久理事長)が13日発表した7～9月期の県内企業景況調査は、前年同期と比べ業況が「好転」したと答えた企業の割合から悪化したとする割合を引いた業況DIが6.7となり、14期連続でプラス超となった。観光客の伸びで、飲食店・宿泊業のDIは70.4と過去最高を記録、小売業などの関連業種も高水準だった。

業種別では飲食店・宿泊業のプラス超幅が大幅に拡大した。入域観光客数は7月に80万人台、8月は90万人台と単月の記録を更新しており、宿泊稼働率と宿泊単価も向上した。卸売業や小売業、製造業も観光需要の高まりを受け、食料品を中心に好況感が広がった。建設業は公共・民間工事も底堅く、前年の資材高騰が落ち着いたことから7.7

とプラス幅を広げた。サービス業はビルメンテナンスや警備、自動車整備では人手不足から受注ができない企業が出ており、前期10.2からマイナス6へ悪化に転じた。情報通信業は放送業で県外広告収入が減少し、マイナス26.3と落ち込んだ。雇用判断DIは39.9となり、21期連続で不足となった。飲食店・宿泊業70.4、サービ

沖縄公庫業況判断DIの推移



ス業60、運輸業47.1と人手不足感が高水準で推移している。沖縄公庫は「県外からの求人も多く、県内企業の賃金向上は進んでいない」と述べ、10～12月期の見通しも44.3で不足が拡大するとみている。

# 景況感、14期連続でプラス

## 沖繩公庫 7～9月 飲食・宿泊が最高

### 県内景況天気図

※景況天気は売上DI・採算水準DI・資金繰りDIの平均値

| 業種      | 区分 | 2015年       |             |               |             | 2016年         |                |                 |                |
|---------|----|-------------|-------------|---------------|-------------|---------------|----------------|-----------------|----------------|
|         |    | 4～6月期<br>実績 | 7～9月期<br>実績 | 10～12月期<br>実績 | 1～3月期<br>実績 | 4～6月期<br>前回実績 | 7～9月期<br>前回見通し | 10～12月期<br>今回実績 | 1～3月期<br>今回見通し |
| 全業種(併集) |    | 17.1        | 14.8        | 19.0          | 15.7        | 12.8          | 9.5            | 12.1            | 16.9           |
| 製造業     |    | 7.7         | 18.2        | 24.2          | 16.1        | 8.7           | 11.3           | 2.6             | 17.2           |
| 建設業     |    | 11.3        | 5.6         | 9.0           | 14.0        | 7.6           | 1.5            | 6.2             | 10.8           |
| 卸売業     |    | 26.4        | 20.6        | 25.6          | 19.0        | 17.5          | 19.8           | 17.1            | 23.1           |
| 小売業     |    | 29.6        | 17.8        | 18.5          | 22.0        | 21.7          | 18.8           | 25.2            | 30.9           |
| 運輸業     |    | 17.2        | 7.8         | 28.1          | 13.7        | 3.9           | ▲8.8           | 4.9             | 7.8            |
| 情報通信業   |    | 3.5         | 1.8         | ▲5.3          | 8.8         | 7.4           | ▲3.7           | ▲15.8           | ▲3.5           |
| サービス業   |    | 10.9        | 5.9         | 13.3          | 9.4         | 9.5           | 8.2            | 6.7             | 10.7           |
| 飲食店・宿泊業 |    | 36.1        | 50.0        | 43.5          | 23.6        | 34.7          | 25.3           | 60.5            | 37.0           |

☀️ 快晴…30以上～100以下    ☁️ 晴…10以上～30未満    ☁️ 薄曇り…▲5以上～10未満  
 ☁️ 曇り…▲30以上～▲5未満    🌧️ 雨…▲100以上～▲30未満    (単位：%ポイント)

沖繩振興開発金融公庫(川上好久理事長)は13日、2016年7～9月期の県内企業景況調査を発表した。前年同期に比べて景況が「好転」していると答えた企業の割合を示す業況判断指数(DI)は、プラス6・7と14四半期連続で「晴れ」となった。

業種別の業況判断DIで、前期からマイナスに転じた「情報通信業」はマイナス26・3、「サービス業」がマイナス6・0だった。情報通信は放送会社で県外広告の減少が見られた。サービスはビルメンテナンスや警備会社で人手不足で新規取引を断念する企業があった。前期にマイナス20・6だった「運輸業」と、マイナス1・5の「製造業」は、今期は改善して「もちあい」となった。運輸は台風被害が発生した昨年の反動増、製造は受注が増加した。

全業種の売り上げDIはマイナス1・2で、前期のマイナス6・3より減少幅が縮小した。採算水準DIはプラス30・3と黒字幅がやや縮小した。販売価格DI(製造、卸売り、小売業のみ)はプラス4・2で上昇幅が縮小した。

全業種の来期(10～12月)業況判断DIはプラス10・2とやや拡大の見通し。